

(仮称)遠軽豊里IC周辺施設 コンセプト(案)

協議会では、協議会の議論や町民参加によるワークショップでの意見を基にコンセプトを設定しました。

ゲレンデと遠軽とオホーツクの魅力を発信する道の駅

コンセプト実現のための整備の考え方

コンセプトを実現するための**整備の考え方**を3つの視点で整理しました。

1. 利用者に様々な体験を通して「遠軽、オホーツク」を感じてもらう
スキー場併設ならでの様々な体験や、オホーツクの恵みを活かした賑わいづくり。
2. 住民が主体になり「遠軽、オホーツク」らしい道の駅をつくっていく
食や文化を守り・育て・続ける、地域を再発見できる空間づくり。
3. 玄関口としての位置づけを明確にし、利用者に「遠軽、オホーツク」を知ってもらう
旅に楽しさと安全を提供し、災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり。

以降のページでは、整備の考え方のイメージやキーワードを記載しています。
また、今後検討が必要な事項について整理しています。

整備の考え方1 体感

スキー場併設ならではの様々な体験や、 オホーツクの恵みを活かした賑わいづくり。

スキー場のある道の駅

ここでは、全国でも数少ないスキー場併設の道の駅であり、高規格幹線道路ICのすぐそばにスキー場があるというのも珍しいため、この特徴を活かしたいと考えています。

スキー場での様々な体験、札幌・旭川方面から来た時の「オホーツクの玄関口」としてこの地域の恵みを提供などについて検討が必要です。

Keywords

スキー場の活用（夏利用、夜利用） / 2~3時間滞在してもらえるように道の駅を目的地として来てもらえるように / 子どもの運動・あそび
旧ゴルフ場の利用 / 定期的なイベント開催 / 景観・眺望を鑑賞
ホッとする演出

今後検討が必要な施設・アクティビティ等

スキー場を活用したアクティビティ

・スキー場の夏利用、旧ゴルフ場の活用など、町内外を問わず活用できる施設・アクティビティについて検討。



マウンテンバイク



グラススキー



ドッグラン



トレッキング



ゴルフコース



大玉ころがし

斜面（スキー場）を利用した風景づくり

・駐車場や建物から見える斜面を遠軽町らしく演出することを検討。
(上記のアクティビティとの共存も検討)



芝ざくら



コスモス園



牛の放牧



羊の放牧

利用しやすい休憩スペース

・アクティビティの待ち時間や休憩に利用できる空間の検討。



休憩コーナー



足湯



手湯

整備の考え方2 創造

食や文化を守り・育て・続ける、 地域を再発見できる空間づくり。

チャレンジする道の駅

圏内には海も山も川もあるため、様々な食材を集めることができます。訪れた人が、それらの食や文化を感じていただきながら、楽しみ、安らげる空間づくりをしていきたいと考えています。

食や地元の野菜や製品の提供などについて検討が必要です。

Keywords

住民主体で地域の食の提供 / 立ち寄りたくなる食や空間の提供
オリジナル商品、ハンドメイド / 生産者と消費者が顔を合わせる

今後検討が必要な施設・アクティビティ等

食の提供

- 道の駅は様々な人が訪れます。訪れる人たちの特徴を考えつつ、自分たちができる食の提供について考える必要があります。

▼レストラン



川場田園プラザ



萩しーまーと

▼軽食



たこ焼き



いももち

▼フードコート



フードコート



ラーメン

野菜などの販売スペース

- 地元の野菜や加工品をアピールし販売することが必要だと考えています。その販売するものや販売の仕方・運営体制などについて考える必要があります。

▼施設内での野菜の販売



ニセコビュープラザ

ライスランド
ふかがわ

▼屋外での野菜の販売 (イベントの開催)



アークヒルズマルシェ



軽トラマルシェ

物産の販売スペース

- 地元の物産をアピールし販売することが必要だと考えています。販売するものの対象をどの範囲にするのか(オホーツク?遠紋地区?遠軽町?)などについて考える必要があります。

ウッドクラフト
(木芸品)木のラップ
エゾ会敷 (かいしき)

黒曜石製品

化粧品
(遠軽の蜂蜜を利用)

整備の考え方3
安心

旅に楽しさと安全を提供し、災害時も安心して滞在できる情報・交通・防災の拠点づくり。

出立つための道の駅

交通の要衝として発展してきた遠軽は、多くの人や物が集るオホーツクの玄関口です。

訪れた人が短い時間でもゆっくり休め、次の地へ向かうために助けになる情報の提供について検討が必要です。また、防災拠点としての活用を考えた空間づくりや施設の検討も必要です。

Keywords

オホーツクの玄関口 / 市街地との連携 / 情報提供による周遊観光の促進 / 施設・イベントなどの情報を提供 / 通過地点として質の良いサービスの提供 / きれいなトイレ / バリアフリーな施設 / 防災拠点、EV急速充電器

今後検討が必要な施設・アクティビティ等

周辺地域の情報提供・簡単な体験

- 施設の所在や営業日時だけでなく、「何が面白いのか、どう楽しいのか」を伝える情報提供について考える必要があります。
- 施設間で連携したイベントの実施（スタンプラリー、複数施設の利用で割引等）などについての検討も考えられます。



太陽の丘えんがる公園



森林公園いこいの森



白滝ジオパーク交流センター



見晴牧場



昆虫生態館



ちやちやワールド



オホーツク文学館

防災拠点として時間を過ごせる設備

- 施設内での仮眠、備品の収納、ヘリポートの設置などが考えられます。
- トイレの維持・管理、バリアフリーな施設づくりなどは必須であり、また、EV急速充電器の設置及び災害時の活用についても考える必要があります。



東日本大震災八戸市市庁

運営組織、体制

- 既存の組織である観光協会、商工会議所などが指定管理者として運営を担うことが考えられます。
- スキー場の指定管理者との連携や施設管理のあり方などについても検討する必要があります。

